

ロイヤルベビーシート

Royal Baby Seats

a limited edition

本体取扱書



1 ご使用にあたって - 2

2 ご使用上の注意 - 4

3 各部の名称 - 7

4 お子様の乗せかた - 7

5 肩ベルトの調節 - 8

6 アームの調節 - 9

7 車両への取付け - 10

8 その他 - 13

9 ベビーシートのお手入れ - 14

このたびはコンビベビーシート“ロイヤルベビーシート”をお買い上げいただき、ありがとうございました。



本品は、自動車事故の場合などの際にお子様を衝撃から守ったり、衝撃を緩和することを目的につくられたベビーシートです。

お子様の安全のためにご使用前に必ず本書をよくお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

本書は紛失しないようお車の中に保管してください。

本品を他のお客様にお譲りになるときは必ず本書も合わせてお渡してください。

1 ご使用にあたって

警告表示について

この取扱説明書では安全にご使用いただくため、特にお守りいただきたいことなどを次のマークで表示しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠ 警告 記載事項を守らないと、生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあるもの。

⚠ 注意 記載事項を守らないと、傷害、事故またはベビーシートの破損につながるおそれがあるもの。

その他の表示について

《完了チェック》 安全のため、最後に必ず確認していただきたいことを記載しております。

🔔 アドバイス この用品のために守っていただきたいこと、およびより安全、快適にご使用いただくうえで知っておくと便利なことを記載しております。

●イラストの中で使用されている×の記号は、図示されている行為の禁止を示しています。

安全にご使用いただくために、必ず次の条件をお守りください。

ご使用いただけるお子様

- 体重 — 2.5kg～10kg未満
身長 — 76cm以下で頭頂部が本体から上に出ないお子様
参考年齢 — 新生児～生後12ヶ月ころ
※新生児とは、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上



⚠ 警告

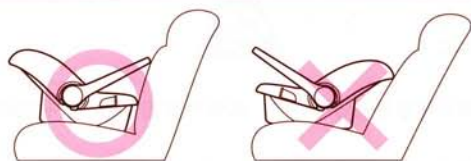
- 上記の条件を満たさないお子様にはベビーシートを使用しないでください。万一のとき、ベビーシートの効果が発揮できず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

🔔 アドバイス

- 体重10kg以上～18kg未満のお子様にはチャイルドシート、体重18kg以上のお子様にはジュニアシートをご利用ください。

⚠ 警告

進行方向に対し必ず後ろ向きでご使用ください



危険ですので前向きには絶対に使用しないでください。

後ろ向き以外では衝突したときなどにベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

🔔 アドバイス

- お子様のためにも1時間以内を目安に定期的に休憩を取るようにしてください。

この様な車両シートベルトの種類、座席には使用しないでください。

警告

- 本品は汎用型ベビーシートであり、ベビーシートの型式指定基準に適合しておりますが、車両シートベルトの種類やシートの形状などにより、確実にベビーシートを固定できない場合は使用しないでください。確実に固定できないと、衝突や急ブレーキの際にベビーシートが移動するなどして十分な効果を発揮せず命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

なお、ご不明な点は、当社「コンビお客様相談室（発売元）」までお問い合わせください。

●車両シートベルトの種類

※車両シートベルトの種類の詳細は「車両シートベルトの種類(P6)」を参照してください。

○：取付できる ×：取付できない（右図参照）

	巻取装置付				巻取装置なし	
	肩ベルト付 ELR(緊急 ロック式)付	肩ベルト付 ELR(緊急 ロック式)付	肩ベルト付 ALR(自動 ロック式)付	肩ベルト付 ALR(自動 ロック式)付	オート マチック	非ロック式
2点式	×	×	×	×	×	×
3点式	○	×	○	×	×	○

●2点式シートベルトの座席



腰ベルトのみのシートベルト

●3点式シートベルトの腰部取付け部が巻取り装置付の座席

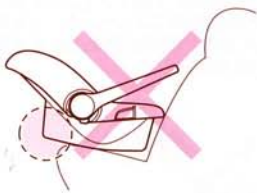


〈参考〉腰部
一般的な3点式シートベルトでは腰部の取付けは固定されています。

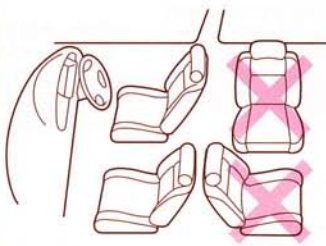
●オートマチックシートベルトの座席

座席に座ってドアを閉じると自動的にシートベルトが装着されドアを開けると自動的に外れるシートベルト。

●ベビーシートの底面の前後端が車両シート座面に納まらない場合又は安定しない座席



●進行方向に対し横向き、後ろ向きの座席



- シートベルトが短かく確実に固定できない座席
- シートベルトの無い座席
- ベビーシートが固定できない座席
- 車両シートベルトのバックルを三回転させてもバックルの位置が高い座席

●SRSエアバッグが装備された座席（SRSサイドエアバッグは除く）



助手席などSRSエアバッグが装備された座席には絶対に取付けないでください。SRSエアバッグがふくらんだときの衝撃で生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ベビーシートを取付けると助手席側の後方視界を妨げる座席（助手席SRSエアバッグが装備されていない座席のみ）



ベビーシートを助手席に取付けた場合ベビーシートが車のドアミラーを隠し後方視界を妨げることがあります。その場合は後席で使用するください。

2 ご使用上の注意

⚠ 警告

- お子様が車内にいるときは、必ず保護者の方が付き添ってください。決してお子様をベビーシートに座らせたまま自動車から離れないでください。炎天下などで車内が高温になり、死亡につながるおそれがあります。



- 事故などにより衝撃を受けたベビーシートは使用しないでください。万一のとき、十分な効果を発揮しないおそれがあり危険です。必ず新しいベビーシートに取り替えてください。



- ベビーシートはお子様を乗せないときでも、安全のために車両シートベルトで固定してください。固定しないと衝突や急ブレーキの際にベビーシートが移動して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、荷物をベビーシートの上に乗せないでください。



- 車両シートベルトおよびベビーシートのベルトを傷付けないようにご注意ください。万一のとき、ベルトが十分な効果を発揮しないおそれがあり危険です。少しでも傷ついた場合は使用しないで新しいベルトに取り替えてください。



- ベビーシートにお子様を乗せてご使用になるときは、バックルを外さないでください。外すと万一のとき、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 走行中およびご使用中はお子様が悪くて車両シートベルトやベビーシートのバックルボタンを押してベルトを外したり、ベルトから抜け出すことのないよう、細心の注意をはらってください。万一のとき、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- 後席に乗員を乗せる場合は、2ドアや3ドア車両などの後席にドアが無い車の前席、1ボックスなどの後席乗員の乗降に支障となる座席にはベビーシートを取付けないでください。後席の乗員が緊急脱出の際に支障となる場合があります。



- ベビーシートに日光が当たると金属部や樹脂などが熱くなり、部品に触れるとやけどをするおそれがあります。熱くないことを確認のうえ、ご使用ください。



警告

- 走行中はベビーシートの調節や操作をしないでください。走行中に行うと運転の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- ご使用中車両シートベルトがゆるむなどしてベビーシートの固定があまくなる事があります。時々点検し、ゆるくなった場合は再度取付け直してください。そのままご使用になると万一のとき、ベビーシートの効果を発揮しないおそれがあります。

(確認、取付けは停車し、安全な状態で行ってください。)



- 安全のため、走行中はお子様をベビーシートから、降ろさないでください。走行中に行くと万一のとき、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。



- ベビーシートの表皮、カバー類は取り外して使用しないでください。
- 本ベビーシートの表皮、カバー類は指定以外のものと取り替えて使用しないでください。
- 本書に記載された以外の方法で絶対に取付けないでください。正しく取付けないと衝突したときなどにベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 本書に記載された以上の分解、構成部品を取外した状態での使用、本品指定以外のものとの交換等の改造は絶対にしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ベビーシートを助手席に取付けた場合(助手席SRSエアバッグが装備されていない座席)ベビーシートとシフトノブやサイドブレーキが干渉する場合があります。もし、干渉する場合は、助手席での使用をやめ後席で使用してください。



- 走行中、停車中ともお子様をベビーシートの上に立たせたり、中腰、正座の状態で使用しないでください。お子様がベビーシートより落ちてケガなどをするおそれがあります。



- お子様、ベビーシートをご使用中は、お子様に固いもの、鋭利なもの等危険なものを絶対に持たせしないでください。わずかな衝撃でも生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 車の座席にクッション、座ぶとんなどを敷いたままでベビーシートを使用しないでください。また、クッション材をベビーシートの調整用として使用しないでください。



- 事故などにより、傷害を与えるような物を固定しない状態でお車の中に放置しないでください。万一のとき、お子様にケガなどをするおそれがあります。
- お子様とベビーシートの間に毛布などを入れないでください。万一のとき、ベビーシートが十分な効果を発揮しないおそれがあります。



注意

- 長時間屋外にベビーシートを放置しないでください。ベビーシートの機能を損ねる原因となります。
- 食べ物、飲物をベビーシートにごぼさないように注意してください。故障の原因となります。
- ベビーシートを車両の可動部分(シートやドア)で挟んだりしないよう十分ご注意ください。ベビーシートが損傷するおそれがあります。
- 後席にベビーシートを取付け、お子様を座らせた場合は、その前席に座る方は、シートスライド、リクライニングをお控えください。万が一シートスライド、リクライニングをする際は、ベビーシートにぶつかることのないよう十分にご注意ください。

車両シートベルトの種類

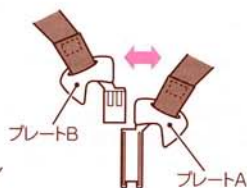
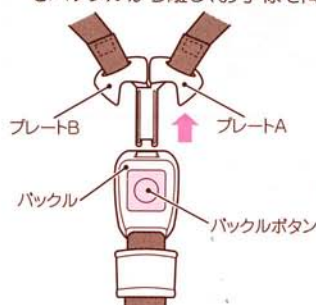
- シートベルトの種類により取付け方法が異なります。ベビーシートを正しく安全に使用されるためにお客様の車両のシートベルト種類を確認して頂き、それぞれの種類に合った取付け方法で装着してください。使用できる車両は、当社「コンビお客様相談室（発売元）」までお問い合わせください。

シートベルトの種類	特 徴	取 付 け
ELR（緊急ロック式 ベルト巻取り装置）付 3点式シートベルト	通常時には、ベルトが自由に引き出し巻取りでき、急ブレーキ等の衝撃を感知したときにベルトがその時点でロックされます。	ベビーシートの取付けに合わせて、シートベルトの長さを引き出し巻取りながら固定してください。 （取付けかたは「7車両への取付け」P10～12を参照）
ALR／ELR（チャイルドシート固定機構）付 3点式シートベルト	ELR付3点式シートベルトにチャイルドシート固定用にALR機構を備えたものです。	装着の際は上記ELR付3点式シートベルトと同じ方法で固定してください。固定した後車両シートベルトを全量引き出しALR機構を作動させ、巻取りながら長さを調節してください。巻取る時車両シートベルトの肩ベルトを持ち上げないでください。 （取付けかたは「7車両への取付け」P10～12を参照）
ALR（自動ロック式 ベルト巻取り装置）付 3点式シートベルト	ベルトを引き出す途中（任意の位置）で止めると自動的にロックされ、それ以上引き出せなくなります。	ベビーシートを固定するのに必要な長さのシートベルトを一気に引き出して巻取りながら固定してください。巻取る時、車両シートベルトの肩ベルトを持ち上げないでください。 （取付けかたは「7車両への取付け」P10～12を参照）
NLR（非ロック式 ベルト巻取り装置）付 3点式シートベルト	ロック機構が無く、ベルトを全部引き出した状態で体格に合わせてベルトの長さを調節します。	巻取り装置からシートベルトを全部引き出し、ベビーシートに合わせてシートベルトの長さを調節し固定してください。 （取付けかたは「7車両への取付け」P10～12を参照）
マニュアル式 3点式シートベルト	巻取り装置が無く、体格に合わせてベルトの長さを調節するシートベルトです。	ベビーシートに合わせてシートベルトの長さを調節し固定してください。 （取付けかたは「7車両への取付け」P10～12を参照）

緊急の場合には

緊急時にはあわてずに、下記方法ですみやかにお子様を救出してください。

- バックルのボタンを指で強く押し、プレートA・Bをバックルから離し、お子様を降ろしてください。



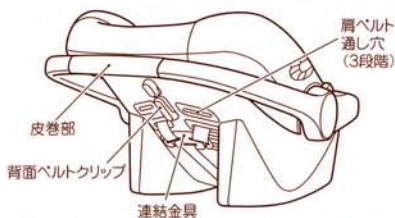
- バックルからプレートA・Bが抜けない時には、ベビーシートの肩部ベルトを刃物等で切り、お子様を降ろしてください。



3 各部の名称



付属品



(高さ:383×奥行:653×幅:443 重量:2.5kg)

アドバイス

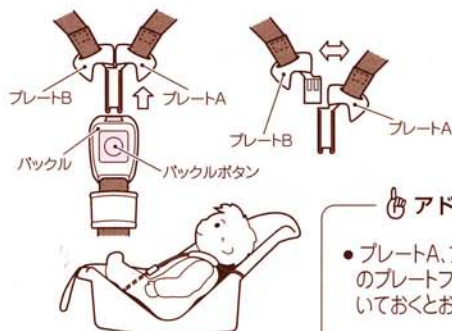
- 取扱書をご使用にならないときは、大事な備品であるため紛失しないように大切に保管してください。

4 お子様の乗せかた

警告

- ベビーシートのバックルを外したままのご使用は絶対におやめください。

- ① バックルのボタンを強く押して、プレートA・Bを外してください。(下図参照)
- ② お子様のお尻がシートの一番深い位置にくるように乗せてください。



- ③ プレートAとプレートBを組み合わせてから、バックルに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。(左図参照)

アドバイス

- プレートA、プレートBをそれぞれ左右のプレートフックに引っ掛けて外側に開いておくとお子様を乗せやすくなります。



警告

- プレートA、プレートBは片方ずつではバックルに差し込めません。また片方のみではバックルにロックしません。必ずプレートAとプレートBをきちんと組み合わせてからバックルに差し込み、ロックしてください。

- ④ 肩ベルトの位置や長さをお子様の体格に合わせ必ず調節してください。(「5肩ベルトの長さ調節」P8を参照)
- ⑤ ベルトカバーをお子様の肩にかかる位置に調節してください。

完了チェック

警告

- 右記の項目を満足しない状態で使用しないでください。ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ベビーシートの効果を十分に発揮させるため、次のことを確認してください。
- バックルとプレートA・プレートBが確実に結合されていること。
- 肩ベルトがねじれたり、ゆるんだ状態になっていないこと。
- ベルトカバーが正しい位置にあること。
- 連結金具が肩ベルトに正しく付いていること。(肩ベルトを引っ張り確認してください。)

5 肩ベルトの調節

⚠ 警告

- 各機能の取付け、取り外しおよび調節は必ず停車中に行ってください。走行中に行くと運転の妨げとなり、思わぬ事故の原因となります。

1. 肩ベルト通し穴の変えかた

⚠ 警告

- 肩ベルトは、お客様の体格に合わせて必ず調節してください。正しく調節しないと衝突したときなどにベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

お客様の成長に合わせて、肩ベルトの位置を調節してください。

- ① 背面の連結金具から肩ベルトを外してください。



- ② ベビーシート本体から肩ベルトを抜き取ってください。



- ③ 下図のように肩ベルトをお子様の肩の高さに最も近い位置で、左右同じ高さの肩ベルト通し穴に通してください。

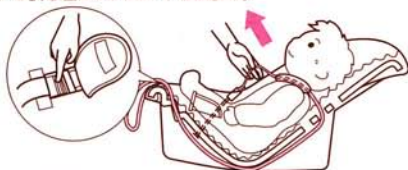


- ④ 背面の連結金具に肩ベルトを差し込んでください。



2. 肩ベルト長さの調節

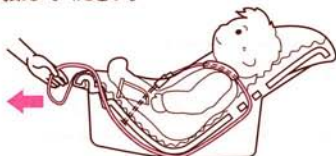
- ① 図のようにロック解除レバーを押しながら左右の肩ベルトを引き出し、ゆるめてください。



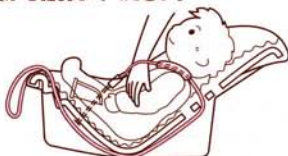
- ② 図のようにお子様の体と肩ベルトの間に手のひらが入る程度に、肩ベルトの長さの目安をつけてください。



- ③ 調節ベルトを引き、②で決めた長さになるよう肩ベルトの長さを調節してください。



- ④ お子様の体と左右の肩ベルトとの間に手のひらが入る程度かを確認してください。



《完了チェック》

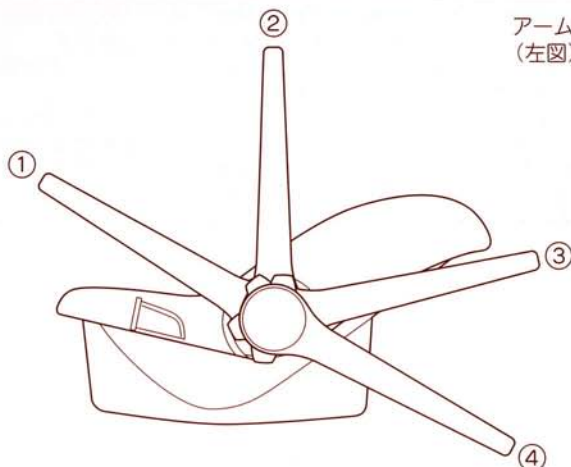


⚠ 警告

- 下記の項目を満足しない状態で、使用しないでください。ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ベビーシートの効果を十分に発揮させるため、次のことを確認してください。
 - 肩ベルトが左右とも確実に調節金具に接続されていること。
 - 肩ベルトが左右同じ高さの穴から通してあること。
 - 肩ベルトがねじれたり、ゆるんだ状態になっていないこと。

1. アームの位置

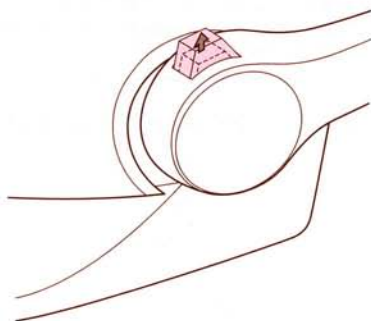
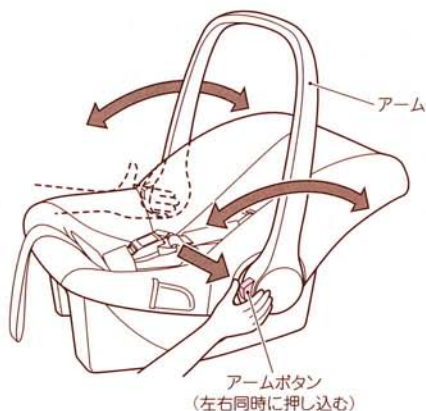


アームは、次の4つの位置で固定して使用できます。
(左図)

- ① 車両取付け位置
- ② キャリア位置
- ③ ゆりかご・収納位置
- ④ ベビーラック位置

2. アーム位置の調節

- ① 左右のアームボタンを同時に押し込み、アームのロックを外し、アームを回転させます。
- ② アームを使用する位置で、アームボタンが戻りアームがロックされるのを確認します。



《完了チェック》

⚠ 警告

- 下記の項目を満足しない状態で使用しないでください。
ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ベビーシートの効果を十分に発揮させるため、次のことを確認してください。
 - アームが確実にロックされていること。
 - アーム位置が正しい使用位置にあること。

7 車両への取付け

⚠ 警告

- ご使用前に取付け可能な座席であることおよびお子様が使用条件を満たしていることを必ず確認してください。(「1 ご使用にあたって」P2.3を参照) 取付けが難しい場合は無理に取付けしないでください。万一のとき、ベビーシートが効果を発揮しないばかりか思わぬ事故のおそれがあり危険です。
- ベビーシートは進行方向に対して、必ず後ろ向きで取付けてください。前向きではベビーシートが効果を発揮しないばかりか、万一のときに思わぬ事故のおそれがあり危険です。
- お子様を乗せたまま車両へ取付けるときは、お子様が落ちてケガをすることのないよう、十分注意して取付けてください。
- SRSエアバッグが装備されている座席には絶対に取付けしないでください。エアバッグがふくらんだときの衝撃で生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお前席(助手席SRSエアバッグが装備されていない座席)にベビーシートを取付ける場合は、車両前席シートの前後位置をいちばん後ろの位置にした上で後ろ向きに取付けてください。

🔑 アドバイス

- 万一のとき、後席の方がより安全と言われているので、後席への取付けをおすすめします。

1. 車両シートへの置きかた

- ベビーシートの座面先端部が車両シートバックに当たるようにしてください。
- 〔リクライニング付シートの場合はベビーシートの座面先端部が車両シートバックに当たるようリクライニング調節してください。〕
- ベビーシート底面の前端が車両シート座面に接するようにしてください。



🔑 アドバイス

- 車両にアジャスタブルショルダーベルトアンカが装備されている場合は一番下の位置に調節しておくと、ベビーシートを取付けやすくなります。
- ※アジャスタブルショルダーベルトアンカ…車両シートベルトが乗員の肩に十分かかるよう高さを調節できる機構。(調節方法等、取扱については車両の取扱書をお読みください。)
- 前席へ取付ける場合(助手席SRSエアバッグが装備されていない座席のみ)は車両シートを一番後ろまで下げておくこととベビーシートを取付けやすくなります。

⚠ 警告

- 運転者が適切な運転姿勢をとれないおそれのある座席には取付けしないでください。運転の妨けとなり思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(運転席の後方座席や運転席と助手席が一体の車両など)

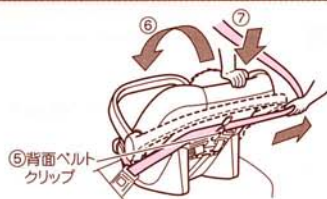
2. 車両シートベルトでの固定のしかた



- ① 車両シートベルトをベビーシートの上を通して、車両のタンクプレートが車両のバックルに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
- ② 車両シートベルトをベビーシートの両側のベルトフックに差し込んでください。
- ③ 車両シートベルトを引き上げ、ゆるみを取ってください。
- ④ 車両シートベルトを引き出し、ベビーシートの背面を通過させてください。

🔑 アドバイス

- 車両シートベルトが短く、ベビーシートの背面を通過させにくい場合は「車両シートベルトが短く背面を通過させにくい場合」(P12)を参照ください。
- ALR/ELR付シートベルト、ALR付シートベルトの場合、車両シートベルトをすべて引き出さないでください。チャイルドシート固定機能が作動し、取付けにくくなります。万一、チャイルドシート固定機能が作動した場合、車両シートベルトを全部巻き戻し、再度装着してください。



- ⑤ 車両シートベルトをベビーシートの背面ベルトクリップに差し込んでください。
- ⑥ 左右のアームボタンを同時に押し、アームを車両取付け位置 (P9参照) まで回転させロックさせてください。
- ⑦ ベビーシートを車両シートに押しつけながら、ベルトのゆるみを取ってください。
- ⑧ ALR/ELR付シートベルト、ALR付シートベルトの場合は、車両シートベルトが止まるまでゆっくり引き出した後、ベビーシートをしっかりと固定できるように車両シートベルトを巻き取ってください。(車両シートベルトが引き出せないことを確認してください。)

⚠ 警告

- シートリクライニングノブの下にシートベルトが入り込まないようにしてください。

《完了チェック》

⚠ 警告

- 下記の項目を満足しない状態で使用しないでください。ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ベビーシートの効果を十分に発揮させるため、次のことを確認してください。
- 車両ベルトが図の通りになっていること。アームが図の位置で確実にロックされていること。

左側座席への取付け状態

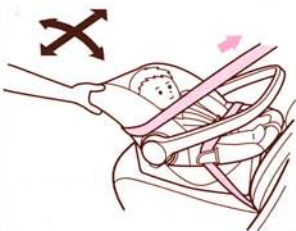


右側座席への取付け状態



- ベビーシートに前後左右に力をかけ、ゆすってみたとき、確実に固定されていること。

⚠ 警告



- 固定が不十分な場合は前ページ「車両シートベルトでの固定のしかた」の③⑦をやり直し、ゆるみを取ってください。
- 車両シートベルトが短いときや、車両シート座面とベビーシート底面の前端が接しないときは装着しないでください。
- 車両シートベルトがALR(チャイルドシート固定機能)付ベルトの場合、全量引き出してALRの状態では装着し、車両シートベルトの肩ベルト部を持ち上げないでください。(左図→矢印方向) ベルトが引き出せずベビーシートが傾いた状態となり、ベビーシートが効果を発揮しないおそれがあり危険です。装着をやり直してください。

- お子様が座っても、車両シートベルトにゆるみがないこと。(「4 お子様の乗せかた」P7を参照)
- 車両シートベルトがねじれていないこと。
- シートリクライニングノブの下にシートベルトが入り込んでいないこと。

車両シートベルトが短く背面を通過させにくい場合

アドバイス

- 前席へ取付ける場合（助手席SRSエアバッグが装備されていない座席のみ）は車両シートが一番後ろの位置に調節しておくとおベビーシートを取付けやすくなります。
- 車両にアジャスタブルショルダーベルトアンカが装備されている場合は一番下の位置に調節しておくとおベビーシートを取付けやすくなります。

- ① 車両シートにベビーシートを斜めに置いてください。 ② ベビーシートの上に車両シートベルトを通し、図の位置で車両のタングプレート保持しながら、車両シートベルトを引き出し、ベビーシートの背面を通過させてください。



アドバイス

- ALR/ELR付シートベルト、ALR付シートベルトの場合、車両シートベルトをすべて引き出さないでください。チャイルドシート固定機能が作動し、取付けにくくなります。万が一、チャイルドシート固定機能が作動した場合、車両シートベルトを全部巻き戻し、再度装着願います。

- ③ ベビーシートを後ろ向きに戻し、車両シートベルトをベビーシート両側のベルトフックに差し込んでください。 ④ 車両のタングプレートを車両バックルに「カチッ」と音がするまで差し込み、車両シートベルトを引き、ゆるみを取ってください。 ⑤ 車両シートベルトをベビーシートの背面ベルトクリップに差し込んでください。



- ⑥ 左右のアームボタンを同時に押し、アームを車両取付け位置（P9参照）まで回転させロックさせてください。 ⑦ ベビーシートを車両シートに押しつけながら車両シートベルトを引き、ゆるみを取ってください。



- ⑧ ALR/ELR付シートベルト、ALR付シートベルトの場合は、車両シートベルトが止まるまでゆっくり引き出した後、ベビーシートをしっかり固定できるように車両シートベルトを巻き取ってください。（車両シートベルトが引き出せないことを確認してください。）

《完了チェック》

警告

- 前ページの完了チェック（P11）の項目を満足しない状態で使用しないでください。ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

○ベビーシートの効果を十分に発揮させるため、前ページ（P11ページ）の完了チェックに従って、必ず確認してください。

1. ベビーラック、ゆりかごとしてのご使用

- 屋内ではベビーラック、ゆりかごとしてもご使用いただけます。
- アームは下図位置でご使用ください。(P9参照)



⚠ 警 告

- 斜面や不安定な場所へは置かないでください。ベビーシートがたおれたりし、お子様が落ちてケガなどをするおそれがあり危険です。

⚠ 注 意



- ベビーラックとしてご使用になる場合、過剰に押しつけない様ご注意ください。故障の原因となります。

2. 持ち運び方法

- 車外ではベビーキャリアとしてもご使用いただけます。

⚠ 警 告

- お子様をベビーシートに乗せているときは、必ずベビーシートの肩ベルトを着用させてください。万一のとき、お子様が落ちてケガなどをするおそれがあり危険です。

アームを使用する場合

- ① アームをキャリア位置に固定してください。(P9参照)



- ② アーム中央を持って持ち運んでください。



ベビーシートを直接持つ場合



ベビーシートの上下の樹脂部を両手でしっかり持ってください。

⚠ 警 告

- 表皮だけを決して持たないでください。表皮がずれて両手でベビーシートを支えられなくなるおそれがあり危険です。

9 ベビーシートのお手入れ

1. 構成部品の取り外しかた

⚠ 警告

- 下記説明以外の分解はしないでください。万一のとき、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。



<取り外し順序>

- ① バックルより、股ベルトパッドを取り外してください。
(上に引き抜きます。)
- ② 左右の肩ベルトから、左右のベルトカバーを外してください。
(ベルトカバーのマジックファスナーを外します。)
- ③ アーム下側のゴムひものフックを外してください。
- ④ ベビーシート足元側から表皮を取り外してください。
(頭部側から表皮をはずすと両サイドのベルトフック部
が外れにくくなります。)

2. お手入れ方法

(1) . 表皮類の洗いかた



表皮類

部品	構成	表地	中綿	裏地	フリル
表皮		綿100%	ポリエステル100%	ポリエステル100%	ポリエステル100%
ベルトカバー		綿100%	ポリエステル100%	ポリエステル100%	
股ベルトパッド		綿100%	ポリエステル100%	ポリエステル100%	

- 水またはぬるま湯で押し洗いしてください。なお、汚れがひどいときは、中性洗剤で手洗いし風通しのよい日陰に干してください。
- 十分に乾くまで使用しないでください。
- 塩素系漂白剤は色落ちするので使わないでください。
- アイロン掛けはしないでください。
- 乾燥機には、かけないでください。

(2) . 樹脂部品、肩ベルトのお手入れ

- 掃除機などで、ほこりやごみを取ってください。
- 飲み物など、しみの残りやすいものをこぼしたときは、乾かないうちに拭き取ってください。
- 汚れがひどいときは、中性洗剤がぬるま湯で汚れをとり、水拭きしてから風通しのよい日陰に干してください。
- 十分に乾くまで使用しないでください。

⚠ 警告

- ガソリン、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

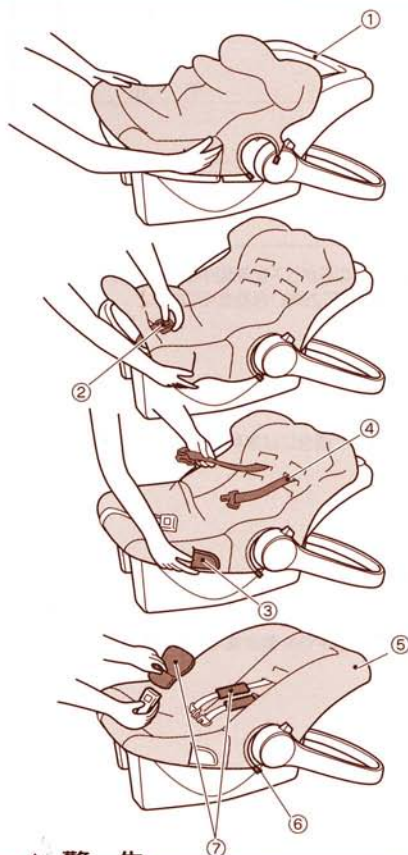
(3) . 皮巻部のお手入れ

- アーム皮巻部の汚れは、水をかたくしぼった布で拭き取ってください。

⚠ 注意

- アーム皮巻部をガソリン、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で拭かないでください。拭くと変色の原因になります。

3. 構成部品の組み付けかた



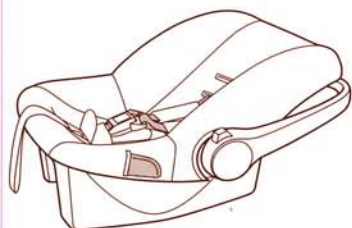
<組み付け順序>

- ① 表皮をベビーシート足元側より、かぶせてください。
- ② バックルを表皮の穴に通してください。
- ③ 左右のベルトフックを左右の表皮の穴に通し、表面に出してください。
- ④ 左右の肩ベルトを表皮の穴に通してください。
- ⑤ 表皮をベビーシート頭部側にかぶせてください。
- ⑥ ゴムひもをアームの下側からまわし、ホックに止めてください。
- ⑦ 左右のベルトカバー、股ベルトパッドを左右の肩ベルト及びバックルに取付けてください。

⚠ 警告

- ベルトフックが外に出ていないと確実に車両に取付けられないおそれがあり危険です。
- 本品は構成部品を取外した状態で使用したり、本品指定以外のものと取り替えて使用しないでください。万一のとき、ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

《完了チェック》



⚠ 警告

- 下記の項目を満足しない状態で使用しないでください。ベビーシートが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ベビーシートの効果を十分に発揮させるため、次のことを確認してください。
 - 左右のベルトフックが完全に表皮から外に出ていないこと。
 - ベビーシートの肩ベルト通し穴と表皮の穴の位置が合っていること。
 - ベルトがねじれていないこと。
 - 構成部品の取付け忘れがないこと。
 - 構成部品の取付け順序および、左右・表裏の間違いがないこと。